

教育課程の意義と編成－6

10/28 担当：鵜殿篤

<http://meganeeculture.boo.jp/2019/09/19/kateiron/>



■今回の見通し

・「教科等横断的な視点」について確認しましょう。

第1 中学校教育の基本と教育課程の役割

4 各学校においては、生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を**教科等横断的な視点**で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「**カリキュラム・マネジメント**」という。）に努めるものとする。（20 頁）

第2 教育課程の編成

2 **教科等横断的な視点**に立った資質・能力の育成

(1) 各学校においては、生徒の発達の段階を考慮し、**言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む）、問題発見・解決能力**等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、**教科等横断的な視点**から教育課程の編成を図るものとする。

(2) 各学校においては、生徒や学校、地域の実態及び生徒の発達の段階を考慮し、豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた**現代的な諸課題**に対応して求められる資質・能力を、**教科等横断的な視点**で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。（21 頁）

- 1：伝統や文化に関する教育(国語・社会・技術家庭・保健体育・音楽・美術・etc.)
- 2：主権者に関する教育(社会・道徳・特別活動・理科・技術家庭)
- 3：消費者に関する教育(社会・技術家庭・道徳)
- 4：法に関する教育(社会・技術家庭・道徳・特別活動)
- 5：知的財産に関する教育(国語・社会・技術家庭・音楽・美術・道徳)
- 6：郷土や地域に関する教育(社会・音楽・技術家庭・美術・外国語・総合・特別活動)
- 7：海洋に関する教育(社会・技術家庭・理科・特別活動)
- 8：環境に関する教育(社会・技術家庭・理科・保健体育・道徳・総合)
- 9：放射線に関する教育(国語・理科・技術家庭・保健体育・道徳)
- 10：生命の尊重に関する教育(理科・道徳・特別活動)
- 11：心身の健康の保持増進に関する教育(保健体育・社会・理科・技術家庭・etc.)
- 12：食に関する教育(社会・理科・技術家庭・保健体育・道徳・総合・特別活動)
- 13：防災を含む安全に関する教育(保健体育・社会・理科・技術家庭・美術・道徳・総合)

『学習指導要領解説 総則編』200-245 頁

■前回のおさらい

・教育課程編成のルール

■今回身につける基本的知識

各教科の目標

- ・各教科の目標が、学習指導要領に記されています。
- ・「学力の三要素」を意識しながら確認しましょう。

理科(78頁)

自然の事物・現象に関わり、理科の**見方・考え方**を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然の事物・現象についての**理解**を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な**技能**を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する**力**を養う。
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする**態度**を養う。

※見方：鍵となる概念

※考え方：方法論

→「教科の本質」とは何か?…「概念」とは? 「方法論」とは?

教科等横断的な視点

・教科の枠や垣根を取り払い、ひとつの総合的な「力」を育てます。ある教科で身につけた力は、別の教科でも発揮することができます。

▼言語能力＝ディベート、ディスカッション、レポート、プレゼンテーション

▼情報活用能力＝ICT、メディアリテラシー

▼問題発見・解決能力＝問題解決学習

→教育課程全体をシステム化し、各教科を連動させます。

→多面的多角的にものごとを理解できるようになることを目指します。

※多面的＝概念のレイヤー化。多角的＝方法論の多様化。



■今回の「週刊教育課程」

・教科等横断的な視点から、自分の学校が育成を目指す「資質・能力」を実現しよう。

(1)自分が担当する教科(理科)で、「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」をどのように育むか、具体的に考えてみよう。

(2)自分が作ったオリジナル教科に対して、各教科で獲得した知識や能力がどのように関わってくるか、考えてみよう。

(3)自分の学校の「教育目標(コンピテンシー・ソフトスキル)」やオリジナル教科を踏まえ、さらに各教科の「本質」を考慮した上で、各教科ごとにどのような資質・能力を育むか、重点目標を定めよう。



■復習と予習

・「アクティブ・ラーニング」という言葉が使用されなくなった経緯を調べてみよう。